

【テーマ】

「教育の未来を語る

～10年後の未来に向けて我々は何をすべきか～」

【主催】役員会 教育システム分科会

活動報告

日時：2024年5月31日（金）14:00 -17:00

場所：Fujitsu Uvance Kawasaki Tower+ オンライン配信（Webex）（ハイブリッド開催）

出席者：110名

1. 研究内容

今回は、社会・文化の未来像の予報で人気の高い「未来予報株式会社」の宮川 麻衣子様をお招きし、10年後の社会状況の予報や、その中で教育はどのように変わるのかについて、世界最先端のテクノロジーの祭典「SXSW2024」のレポートも交えてご講演いただきました。

後半は、グループに分かれ意見交換を行いました。10年後の社会、教育の未来像について大いに語り、大学は10年後に向けて何をすべきなのか、教職員は何を考えていくのか、考えを深める場となりました。

なお、今回の分科会はCS研の全体活動（全会員を対象に行う横断的活動）、かつ会員以外の大学の教職員の方もどなたでもご参加いただける公開イベントとして開催し多くの皆様にご参加いただきました。

（内容詳細については「3項 概要レポート」をご参照下さい。）

2. スケジュール

14:00 分科会開始
○開会挨拶

○ご講演

「2034年教育の未来予報 ～10年後の教育現場はどうなっているか」

未来予報株式会社 代表取締役 フューチャリスト

宮川 麻衣子 様

○全体共有

○グループワーク

会場参加の皆さんで意見交換を行いました。オンラインの皆様は「耳だけ参加」。

○全体共有

17:00 ○閉会挨拶
分科会終了

17:30 分科会終了後に懇親会を開催しました

「教育の未来を語る～10年後の未来に向けて我々は何をすべきか～」

5月31日（金）、教育システム分科会が、Fujitsu Uvance Kawasaki Tower（神奈川県川崎市）の会場とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。

今回は、社会・文化の未来像の予報で人気の高い「未来予報株式会社」の宮川 麻衣子様をお招きし、10年後の社会状況の予報や、その中で教育はどのように変わるのかについて、世界最先端のテクノロジーの祭典「SXSW2024」のレポートも交えてご講演いただきました。

後半は会場参加の方でグループワークを行い、各大学の課題や事例等を意見交換して、全体に発表しました。また分科会終了後には、同じ場所で懇親会も行われました。

清泉女子大学の与田氏（教育システム分科会運営委員長）の司会により開会・進行しました。

■ご講演：

「2034年教育の未来予報～10年後の教育現場はどうなっているか」 未来予報株式会社 代表取締役 フューチャリスト 宮川 麻衣子 様より

○これからはIQよりもEQやAQが重要な時代になる

私が代表を務める未来予報株式会社では、人口やデータ等から「予測」をするのではなく、現在の枠を外してあらゆる可能性を探って未来を「予報」しています。大航海時代には、人はユートピアという土地を空間的に探していましたが、近代では、空間ではなく時間軸の先に「何か未来に良いことが起こるかも」と探していると思います。つまり、「未来」を自分の枠から出るユートピアツールとして利用しようというのが、未来予報です。

未来予報式では、「未来（結果）」を起点にして現在を考えるバックキャストिंगの考え方を使います。時間は未来から過去に流れると考え、思い込みを外して未来を描きます。こちらのページで様々な未来予報を発表していますので、興味のある方はご覧ください。

[forecasts — 未来予報株式会社 | VISIONGRAPH Inc. \(miraiyoho.com\)](#)

未来を考える手順としては、まず大量のインプットを行います。例えば後でご紹介するSXSW（サウス・バイ・サウス・ウェスト）の約1,500セッションのスピーカーと紹介文を全てチェックしています。また自分の引き出しを作成することも大事。AI、VR等ではなく「代替」といったキーワードで整理し、未来予報データベースに書き出しています。その後文脈化するという3つのステップで未来予報を作っています。

SXSWというイベントは、もともとは音楽関係の勉強会でしたが、現在は未来のショーケースと言われています。例えばTwitter（現X）やSiriは、SXSWでの受賞歴があります。このようにSXSWは、次の時代を創り出す人々のアイデアやアーティスト、画期的なサービスにいち早く触れることができる場所で、今では9日間で述べ30万人の人が参加します。

では未来予報の前に、最近設立された特色のある教育機関をご紹介します。

● Singularity University (2008)

大学ではなく、シリコンバレーの人気教育プログラムです。未来のテクノロジーに特化したプログラムを提供し、1,000のスタートアップを生み出し、10億人の生活にインパクトを与えることを目標としています。

● Olin College of Engineering (1997)

少人数制の私立工科大学で、実践的なチームベースのプロジェクトにより現実世界の工学的課題に取り組んでいます。産学連携に積極的で協賛企業も多く、知的財産権は企業が100%保有するのが特徴です。

● Minerva University (2014)

サンフランシスコに本部を置きますが、キャンパスを持たないオンライン総合私立大学です。全寮制で寮を移動して7つの都市に移り住みながら、授業はオンラインで受講します。

● Stanford Doerr School of Sustainability (2022)

スタンフォード大学が70年ぶりに新設した学部で、気候変動に特化した学校です。プラネタリーヘルス（地球の健康）を研究するための環境を整えています。

● MIT Stephen A. Schwarzman College of Computing (2020)

MITが新設したAI等の最先端技術をリードするカレッジです。哲学、金融、生物学、化学、機械工学、核融合等幅広い分野を想定し、全ての人のためのコンピューティングを目指しています。

● 文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」

日本でも、文科省が支援事業を行っており、デジタル・グリーンの成長分野に関する新設大学・学部が増える可能性があります。なお、2025年度に新設申請されている4つの私立大学のうち、3つがオンライン大学です。

SXSWの中には、SXSW EDUという教育に特化したプログラムがありその中で紹介されていた予報をいくつかご紹介します。AIについてのセッションでは、説明可能なAIとして、「バイアスがかかっていないか」、また「なぜこの回答になるのか明確に説明できるか」の検証についての講演がありました。また今後、仕事の30%がAIで自動化されるため、人間はIQよりも共感力やコミュニケーション力のEQ（Emotional Intelligence Quotient：心の知能指数）や、逆境に打ち勝つ力のAQ（Adversity Quotient：逆境指数）が重要になってくるという講演もありました。

教育現場に導入されていく技術・XRの一つに、ホログラムがあります。人が立体的に映るので、存在感があり遠隔授業や手話等へ活用されるかもしれません。そのほか、AIの3Dスキャンアプリ「Luma AI」も教育との相性がよさそうです。

[Proto Hologram on NBC Dayton, Ohio with Howie and David - YouTube](#)

2010年から2025年頃に生まれた（生まれる）α世代について考えてみましょう。α世代の49%がタブレット端末を所有しており、デスクトップパソコンとVRヘッドセットを多く使います。将来については楽観的ですが、お金についてはシビアな傾向にあるようです。キーワードとしては、「現実主義」「高いリテラシー」「強い意志」が挙げられるでしょう。

未来の大学生の姿（予報）

彼らの特長としてまとめると

現実主義

高いリテラシー

強い意志



© VISIONGRAPH Inc. All Rights Reserved.

最後に2034年の教育の世界を考えてみます。4つの予報を考えてみました。

①レイヤー教室 (VR)

一見今と変わらない風景のようですが、各学生の見ている画面が違います。中等教育から高等教育までXRを使った授業や講義は当たり前となっているでしょう。同じ教室で受講しながらも、パーソナライズやリアルタイムが重視されるかもしれません。

②Alpha School (大学間連携)

地域の特性を生かした学部の新設等、地域との連携を最大化した大学や学校が人気となるかもしれません。ミネルバ大学のように、地方大学同士が連携して連携大学のオンライン講義を受講して単位にできる等、好きな大学環境を選択できることが学生の最大のメリットとなる可能性もあります。

③楽観的ニヒリズム (教育)

Z世代は虚無感を持って生きていると言われていますが、α世代はよりリアリストで、強い意志を持っているため、楽観的に人生を捉えることができるかもしれません。彼らは自分の人生の目的を自分で見つけようとします。これを手助けするために、職業に直結する訓練校ではなく大学にしかできないリベラルアーツ教育が重要となるでしょう。

④Futures Literacy (教育)

Futures Literacyは、未来を「考えるツール」として使うためのリテラシーです。AIの進化により人は思考を外部化するようになります。AIが“考え”、人間が行動するような時代に、若い人たちには何が必要でしょうか。未来についての仮説を探求し、新たな可能性や選択肢を考える力をつける教育が重要でしょう。

4つの予報

①レイヤー教室 (VR)

②Alpha School (大学間連携)

③楽観的ニヒリズム (教育)

④Futures Literacy (教育)



© VISIONGRAPH Inc. All Rights Reserved.

■意見交換：

その後3グループに分かれて意見交換を行いました。テーマ案が出され、ほとんどのグループで「AIとの協働」を中心に議論されたようです。各グループの発表をご紹介します。

Aグループ

プログラミング教育はAIとの親和性が高く、「5年前は1年かかっていた学習が、ChatGPTの活用により1カ月でできるようになった」という体験談もありました。効率は上がっていますが、試行錯誤させて力を付けさせる過程も重要だという意見が出ました。また米国の教育現場では、AIがパーツとして日常に入り込んでおり、今後日本にもそういう考え方が浸透してくるでしょう。AI活用のガイドラインも必要ですし、AIが生成した回答を検証できる力の教育も必要だという話が出ました。また、年齢層の高い経営陣にAI等最先端技術への投資の必要性を理解してもらうのは大変ですが、数十年前から比べるとBYOD等で教育現場が大きく変化して便利になっていることを考えれば、理解してもらえるのではという意見もありました。

Bグループ

前半は、学生がレポートにChatGPTを使うような状況の中でAIとうまく融合するためにどう教育をすべきかについて、教職員と学生の立場から話をしました。また将来的に、大学が保有するLMSや教務のデータを活用して様々なことができるようになるという話もしました。後半は宮川さんと合流し、今の学生に、どう能力を身に付けさせるべきかが議論となりました。例えば、コピペしたとしてもなぜその情報を選んで収集したかを説明できれば学びになるのでは、という意見もありました。皆さんの話を聞いて、大学では効率的に何か学ぶだけではなく、「何かと何かを結び付ける力」を研ぎ澄ますための教育や体験も求められるのではないかと思います。

Cグループ

AIをどう使いこなすかという話もしましたが、AIの回答に学生が的確な基準で正しい判断を下せることが非常に大切で、また教育が必要な部分だという意見が出ました。

後半は宮川先生のAI教室の話を膨らませて議論しました。「学生は画面に向かってそれぞれ別のことをしているのになぜ同じ教室にいるのか」については、同じ目的を持っているから、そして私学であれば建学の精神・理念に共感しているからではないでしょうか。この建学の精神は、移り行く時代の中で「変えてはいけないもの」です。理念に共感して集うというのが大学の価値で、いまこそスタート地点に戻って考えなければいけないと感じました。

最後に宮川氏から「今日は、教育の現場にいらっしゃる方々を改めて尊敬しました。皆さんがおっしゃっていたAIの回答を妄信せず批判する能力を、同じ目標を持った人同士で議論するのが重要だと思いました。それが教育機関の重要な役割となるのではないのでしょうか」と述べました。

■閉会：

結びに共立女子大学の湯浅氏（教育システム分科会幹事）が、「今日は宮川先生からリッチな情報をいただき、熱い議論ができました。今後人間が延ばしていくべきスキルは、ITよりも共感力やコミュニケーション力、また逆境に負けず適応する力というのが印象的でした。イメージできないことはマネージできないと言われるように、バックキャストの考え方は大切です。今日はたくさんの情報とヒントをいただき、ありがとうございました」と閉会の挨拶を述べ、次回の分科会の案内をしてお開きとなりました。

分科会終了後に立食の懇親会を開催いたしました。講演いただいた宮川様にも参加いただき、また、久しぶりの対面開催でもあり、始終なごやかな懇親会となりました。

4. 参加校 [41校54名] ・参加企業[9社56名] ・参加総数[110名]

愛知学院大学 [1] 大阪産業大学 [1] 学習院大学 [1] 金沢大学 [1] 関西外国語大学 [1] 関西大学 [1] 神田外語大学 [1] 京都産業大学 [1] 京都府立大学 [1] 京都文教大学 [1] 共立女子大学 [3]	甲南大学 [1] 神戸学院大学 [1] 相模女子大学 [1] 四條畷学園大学 [1] 順天堂大学 [2] 松蔭大学 [1] 城西大学 [1] 上智大学 [1] 清泉女子大学 [2] 摂南大学 [3] 創価大学 [2]	大東文化大学 [1] 千葉工業大学 [3] 帝京平成大学 [1] 東海大学 [3] 東京工科大学 [1] 東京農業大学 [2] 東洋大学 [1] 東洋学園大学 [1] 日本工業大学 [1] 日本大学 [1] 福岡大学 [1]	文京学院大学 [1] 宮城大学 [1] 名城大学 [2] 立正大学 [1] 流通経済大学 [1] 流通科学大学 [1] 麗澤大学 [1] 早稲田大学 [1]	株式会社アップ [1] テロイトーマツグループ合同会社 [1] ファーストスタープロジェクト [1] 株式会社リクルート [1] 京都電子計算株式会社 [2] 東京コンピュータサービス株式会社 [2] 未来予報株式会社 [1] 有限会社ハーティサービス [1] 富士通Japan株式会社 [46]
--	--	--	---	--

5. 所感（教育システム分科会運営委員会）

今回の分科会は、教育システム分科会として準備を進めて参りましたが、扱うテーマが「10年後の未来」ということで分科会の枠を超えて広く参加者を募る形で開催されました。前半の未来予報株式会社宮川氏の講演では、これからの教育機関がどうなっていくのか、何を求められていくのか、またα世代がどのような学生になるのかといった事柄について多くの示唆が得られました。これらの予報を受けて、自身と自身が所属する大学においてどのような事を準備していかなければいけないのか、改めて考えさせられる講演でした。

後半の意見交換会も大変CS研らしく、講演でのインプットに加えて各参加者の体験等も交えた大変有意義な意見交換が行えたかと思えます。今回は本分科会における初の試みとして「意見交換会のネット中継」を行いました。なかなか現地参加出来ない方にも、現場の雰囲気伝わったのではないのでしょうか。

どのような雰囲気かわからず、現地参加に二の足を踏んでいた方もこれをきっかけに参加のハードルが下がるようであれば企画側としては大変うれしく思います。

【 分 科 会 の 様 子 】



【事務局より】

次頁以降に開催後アンケート結果（抜粋版）を記載しています。

開催後のアンケート結果詳細版や当日プレゼン資料ご覧になりたい方は、「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。また、今回の分科会開催に際し事前アンケートを行っています。事前アンケート結果につきましても「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しております。

◆「CS研・IS研情報交換サイト」について

CS研・IS研の会員向けに情報・資料をご提供し、会員の皆様で情報交換をする会員専用のサイトです。

（サイトのご利用をご希望の方は、利用アカウント申し込みサイトにてお申込みください。）

情報交換サイトURL：

<https://csis.ufinity.jp/shared>

※利用アカウント申し込みサイトURL：<https://seminar.jp.fujitsu.com/public/seminar/view/89954>

【連絡先】

私立大学キャンパスシステム研究会 事務局

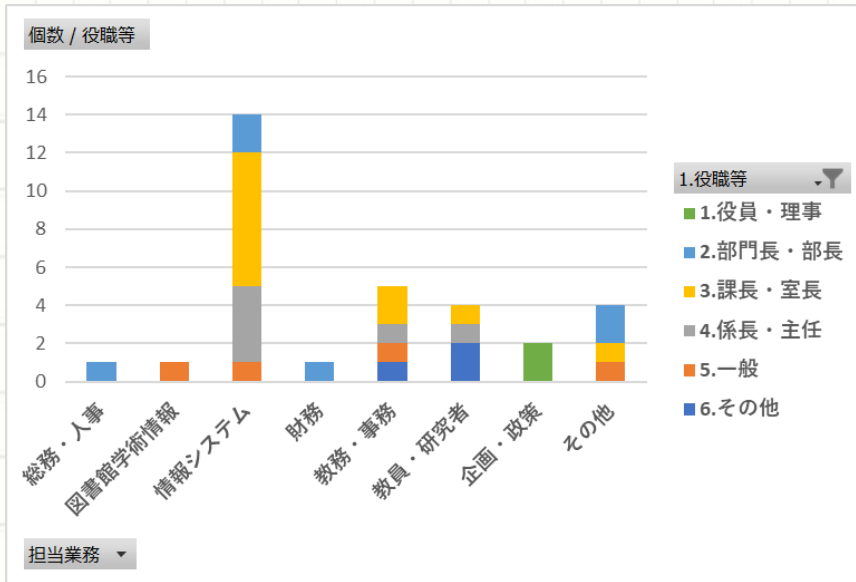
〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1-5 JR川崎タワー

富士通Japan株式会社 P&Eビジネス戦略室内

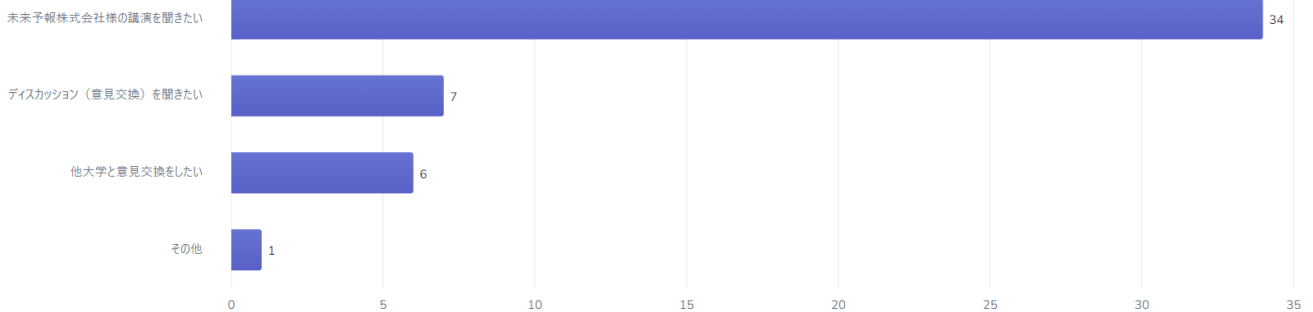
E-mail：contact-csiskn@cs.jp.fujitsu.com

開催後アンケート結果 【回答数／対象者数：33／54（大学関係者のみ）】

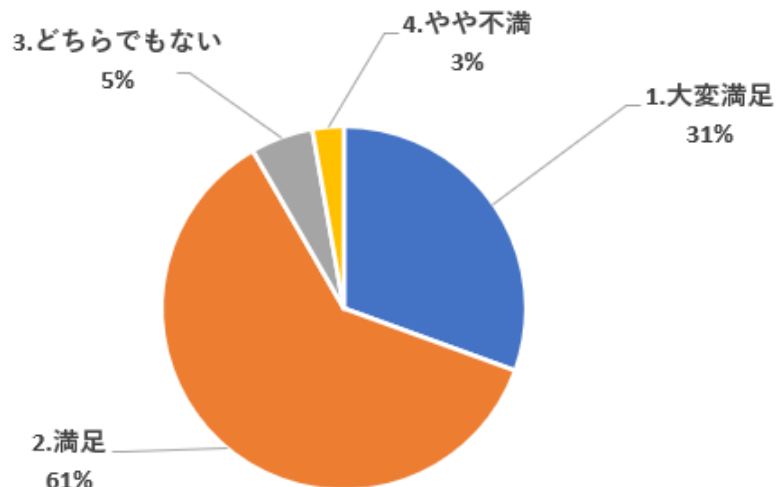
■ 担当業務と役職について



■ 参加した目的について



■ 本日の分科会の全体満足度について



■全体満足度の評価理由について（一部省略・抜粋）

【講演について】

- 講演内容がよく整理され、大変わかりやすく聞くことができました。「未来予報」のイメージができました。
- ユニークな活動や講演内容がとても興味深かった。
- 将来の学生がどのようになるのかなどの予測の話は面白かった。それを元に今後どのような教育をしていかなど、色々と考えさせられた。
- 聞いていて楽しかった。また、これからの教育機関は大きく発想の転換が必要だと改めて感じた。
- アメリカの教育事情について、トレンドを知ることができた。
- 教育の未来を想像するのに様々なヒントが散りばめられており参考になった。
- これからの教育業界の未来のヒントが見えたから。
- アルファ世代の動向の話、面白かった。SNSなどのテクノロジー、コミュニケーションメディアの変化により、考え方や行動原理が変化するとは、驚いた。
- リアルタイムを重視する特性がどのような文化を産み出すのか、楽しみな反面、大丈夫かなとも危惧される。教育を通じて、極端な偏重のない多様な人材が育てば良いなと思った。
- 未来予測と未来予報の違いや、未来を予報するという視点から今までと違ったものの見え方を学ぶことができた。
- 講演の内容は理解できたが、新しい情報が少なかったために、特に印象に残るものはなかった。

【意見交換について】

- ディスカッションが良かった
- ディスカッションが活発で有意義であったこと。
- グループ討論会の様子も見ることができ、いろいろな方のお話を聞くことができ面白かった。
- 意見交換、懇親会を通して視野を広げることができた。
- リッチな情報提供を元に他大学の方と議論できた。
- ディスカッションを聞くだけではとも思っていたが、参加してよかった。

【企画・運営などについて】

- 講演が始まってしばらくして音声が入らなくなったのが非常に残念だった。
- 漠然とした内容だった。
- 講演、討議ともに大変刺激的な内容だったが、時間が足りなかった。ハンドアウト資料を持ち帰りたかった。

■今後、CS研で実施してほしいイベントやテーマについて（一部省略・抜粋）

- 統合DBの構築や活用事例
- 議事録執筆業務におけるAI活用
- 教育DXの小中高大連携
- テーマや希望として挙げるのは難しいのですが、種別や役職等を超えて、未来の教育の姿や課題について議論できる場はとても貴重で興味深いと思いました。

■CS研についてのご意見・ご要望について（一部省略・抜粋）

- 初めて参加させていただきました。大学として貴研究会に加盟させていただいているようですが、今回は個人として、自己研鑽の意味でお話を拝聴させていただきました。良い機会をいただきありがとうございます。
- 特にありません。運営大変お疲れ様でした。今後ともよろしく願いいたします。